

江源氏鑑

十五下



210
70
Vol. 17

部	375
号	25
年	17
月	

中央圖書館藏

寄贈

寄	明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名
贈	大正七年六月八日

江源武鑑卷第十五下

元龜元年六月江北姉川合戦日記目賀田

攝津守入道頼鬼淺井土佐守入道時雲兩

人所記條々

廿五日信長岐阜ヲ立テ江州ニ來ル三河遠

江尾張美濃四箇國ノ集勢ヲソロヘテ都合

其勢六萬三千也

廿六日信長柏原ニ著陣ノヨシ觀音城へ注

進ス屋形七手組ニ進藤山城守後藤喜三郎

江源武鑑

目賀田攝津守青地駿河守平井加賀守伊達
出羽守等ニ二万七千騎ヲサシソヘラレ信長
退治トシテ柏原ニツカハレ玉フ
廿七日信長ト江陽ノ旗頭等柏原ニ於テ合
戦スル辰剋ヨリ午剋マテ信長ノ勢二千五
百騎ヲ討捕味方ノ勢八百三十騎討死ス屋
形鳥本マテ進發今日其作兼禎父子柏原十
千ソ村ニシテ信長ノ横ヤリノ勢二百五十
騎ヲ討捕屋形甚兼禎ノ手柄ヲ感シ玉フ

同日ニ信長小谷表ヘ向フ屋形ヨリ江北横
山ノ城ニ太野木土佐守三田村左衛門佐野
村肥後守同兵庫頭澤田民部少輔五人ニ八
千五百騎ヲサシソヘテ信長横ヤリノ勢ヲ
討捕ヘキノヨシナリ然ルニ信長先手一万
五千騎ヲ以テ横山ノ城ヲ打圍酉剋ヨリ子
剋マテ夜合戦城中ノ勢八百三十七騎討死
ノヨシヲ注進ス信長ノ勢九百八十騎討捕
ト云浅井備前守父子横山ヘ加勢ニ入ルヘキ

ノヨシヲ觀音城へ注進ス屋形ノ曰不可然
淺井父子横山へ加ルト見ハ信長勢ヲ引へ
シ横山ヲカタクモ夕世一兩日モ合戦セハ
信長アクンテ勢ヲ引分ケテ以前ノ鬱憤ヲ
思ヒ必小谷へ向フヘシ其時ニ江東江西ノ
勢ヲアトヨリカケ一軍セハ信長カ勢ハ必
敗北セシテ淺井父子カ加勢ヲトメ給フ
廿八日卯剋ニ信長小谷へ戦向フ淺井下野
守祐政屋形へ後詰ヲコフ屋形辰下剋ニ觀

音城ヲ立テ小谷表ノ後詰トシ向ヒ玉フト
横山ノ城ニ移リ玉フ
同日淺井父子屋形ノ後詰ノヨシヲ聞テ御
紋ノ旗頭ヲ見ヨリ小谷ノ城ヲ打テ出ル其
勢一万五千騎
同日越前ヨリ朝倉義景ノ加勢一万七千騎
其大將トシテ朝倉孫三郎宗景ト云者來テ
淺井カ勢ト一ニ成テ戦フ
同日午剋ニ淺井カ先手三千騎信長九番十

番ノ陣ヲノリクツス依之信長ノ本陣大キ
ニ敗北ス越前ノ加勢モ信長左備ヲノリク
ツス義景ノ者ニ真柄十郎左衛門ト云者ア
リ三十五人カカヲ持ト云申剋ニ越前勢敗
北スル事アリシニ右ノ男一人フミト、マリ
テ數十人ヲ討取テ終ニ徳川三川守家康ノ
家人向坂式部澤田十内ト云者二人シテ右
ノ真柄ヲ討取ルナリ

今日ノ合戦ニ淺井父子越前ノ加勢姉川ヲ

ヘタテ、戦フニ川ヲ渡テ戦フ事四度ニ及フ
同日戌剋ニ屋形七手組ヲ先陣トシ信長ノ
備ヘセメカ、ルニ淺井父子ヲナシクテツ
合テ打テ出テ戦フ信長四千五百騎ヲ打セ
テ陣ヲクリヒキニセントス屋形ノ先手ニ行
ニ立テ追フ淺井父子ヨコヤリニ成テ追カ、
ルニ首三千四百ヲ討取ル信長勢ヲ十三夕
ニ立テククリヒキニシテ濃州岐阜ニ引退
ク今度信長兩度ノ合戦ニ利ヲ失フテ引退

クニ濃州今湏ト云所ノ里ニ一首ノ狂哥ヲ
江陽ヨリタツル
昔ヨリ平氏ノ勝事ノナキ今ノ織田家ハ二度カケテ
コノラタ書ハ柏原ノ百姓ニ五郎介ト云者
カシタリト云屋形此事ヲ聞テ甚禁メ玉フ
廿九日昨日姉川合戦ニ先ヲ仕タル面々ニ
屋形今日感狀并所領ヲ賜ル彼先陣ヲカケ
タル面々ハ磯野丹波守高宮三川守大寺太
和守山崎源太左衛門赤田信濃守連大寺主

膳正和田傳内澤田民部少輔等ナリ昨日午
下剋ニ信長ノ先手坂井右近太夫三千騎ヲ
ノリ取ルナリ首數千七百四十三ヲ討捕リ
又其上坂井嫡子久藏等ヲ討捕ル
先陣ノ面々討取首ノ事
一首二百九十五者 磯野丹波守手討捕之
右ノ内無拜首三有
一首二百七十五者 高宮三川守手打取之
右ノ内無拜首二有

一首二百八十七者 大宇太和守手打取之

右ノ内坂井カ軍奉行可兒與兵衛大

宇カ内宇田藤十郎討捕之

一首百五十四者 山崎源太左衛門手打取之

右ノ内坂井右近カ嫡子久藏山崎内

角五郎兵衛打取之

一首百九十四者 赤田信濃守手打取之

右ノ内坂井カ甥坂井十兵衛赤田内

澤井大介打取之

一首百七十者 連大寺主膳正手打取之

右ノ内并拜首一有

一首百七十四者 和田傳内手打取之

右ノ内坂井カ旗奉行不破源太郎和

田内古元忠内取之

一首百九十三者 澤田民部少輔手打取之

右ノ内坂井伯父道全齊澤田内東十

兵衛太刀下

一昨日ノ合戦ニ江陽へ討取ル惣首數四千

同日味方ノ討死惣數三千九百三十七人
ナリ

廿九日淺井下野守祐政同備前守長政父子
ニ屋形今度ノ合戰ノ忠賞トシテ高嶋郡志
賀郡ノ内ニテ四十五箇所ヲ與ヘ下シ至フ

一首七月小

九日屋形雲光寺ニ參詣ナリ此寺ハ屋形ノ
祖父氏綱公ノ御寺ナリ旗頭等不殘供奉ス

彼寺ノ大和尚今日ニ至テ七日ノ法談アリ

十四日ヨリ十六日ニ至テ屋形旗頭等ニ命
ジテ江州浦々ノ殺生ヤメラル是ハ母公青
樹院殿ノ御爲ナリト云

十六日午剋ニ地震青地伊豫守カ居城青地
ノ城同日未ノ剋ニ燒失ス

井月攝津國ヨリ三好山城守入道笑岩方ヨ

リ屋形工使節ヲ以テ一味ニ信長ヲ退治セ

ント云屋形同意トシアマツサヘ彼使節武

藤美作守ト云者ヲ進藤山城守ニ仰付テ野
湏ノ川原ニテ殺サル
北七日濃州岨早ヨリ信長同名市令介ト云
者ヲ使節トシテ屋形へ中和ノ書アリ屋形
淺井父子進藤等ノ旗頭ニ命シテ此事ヲ相
談マル淺井備前守長政申上ル事有テ屋形
同意ナシト
廿八日志賀ノ八幡宮ヨリ光物出テ殊ノ外
彼宮鳴動ノヨシ社人權佐秀方カ方ヨリ觀

青城へ言上ス

八月大

六日室町殿江東ニ下リ玉ヒ觀音城ニ御著

座有テ屋形ト信長ト中和ヲ取リアツカ

イ玉フ屋形上意ヲ不請信長邪欲ノ事ヲノ

ヘ玉フ公方無カニテ坂本ニ移テ山門ノ衆

徒等ヲ頼玉フ山門三院ノ執行代屋形兼引

ナキ事ヲ聞テ上意ノ旨ニ不應公方世ニ方

ナク洛上ニカヘリ玉フト云

七日今日屋形ノ後見ナリシ箕作兼禎公父
子近年ハ屋形ト中和ニテ日野ノ谷ニ居城
シ當年初方ヨリ野湏ノ城ニ移リ玉フカ三
好家ト終同志ニテ今日卯剋ニ野湏ノ城ヲ
出テ攝州野田城へ退カル彼息右衛門督義
弼ハ福嶋ノ城へ入ラルノヨシナリ
同日淺井下野守祐政觀音城へ出山シテ屋
形ニ言上シテ曰兼禎父子元來御一族トハ
申ナカラ大ニ不忠ノ人ナリ此下野守ニ仰

付ラレハ早速追討スヘキノヨシヲ言上ス
屋形一笑シテ曰後ナリト
十五日室町殿ヨリ上使アリ其意ハ内々信
長ヲ御頼有テ攝州數箇所ノ城々ニ三好一
家ノ者共タテコモリタルヲ退治有ヘキト
ノ義ナリ然ハ江陽ノ屋形モ旗ヲ立ラレ彼
表出陣頼タキトノ御事ナリ屋形ノ曰信長
ニ頼ミ至フ上ハ當國ヨリ勢ヲ出スヘキケツ
カウナシ信長出陣セスハ家勢ヲ向ラレ三

好家ヲ退治有へキトノ返事ナリ
十六日屋形北郡ノ旗頭等ヲ今日觀音城ニ
召ヨセテ命ニテ曰室町殿ノ御頼ニ依テ信
長近日攝州表へ出陣スへシ然ラハ當國へ
カ、ツテ先上洛スへシ美濃勢ヲ國中へユ
ルくト入テ東西ヨリヲシヨセ一騎モ不殘
討へシトナリ京極長門守高吉言上シテ曰
信長左ハ有へカラス伊勢ヨリ上洛スへシ
トナリ果シテ高吉人謂ノコトク信長十八

日ニ濃州ヲ立テ伊勢路ヨリ上洛スルトナリ
晦日河内若江ヨリ告來ル室町殿信長攝津
國野田福嶋退治トシテ昨廿八日ニ野田表
ニツキテ今朝合戦ヲ初ムへキトノ事也ト
云彼野田福嶋ノ兩城ニハ三好カ一家不殘
タテコモリタリ先野田ノ城ニハ三好山城
守入道笑岩同日向守同下野守同備中守同
爲三同新右衛門尉東条紀伊守乾伊賀守澤
田式部少輔篠原玄番允奈良但馬守岩成主

税頭松山新入齊其外和州多門ノ城ニコモリ
タル松永彈正少弼父子モ取コモリ其勢七
千五百騎ナリト云又福嶋ノ城ニハ安宅武
藏守息甚太郎細川六郎同右馬頭同太和守
齊藤右兵衛大夫龍興同叔父長井隼人佐箕
作業禎息右衛門督義弼木津但馬守宗氏左
子兵庫頭輝久其勢六千三百騎ニテ取コモ
ルノヨシナリ
同日淺井備前守カ方ヨリ同名左近ヲ越州

ヘツカハレ加勢ノ事ヲ申請シ人ヨシヲ今
日屋形へ言上ス屋形長政カ心ニ任スヘシ
ノヨシヲ仰玉フ
九月小
二日京都ヨリ告來ル將軍家信長ト謀テ上
野丹後守ヲ伏見ニライテ討玉フト也
六日京都六角ノ館ヨリ目賀田久作一通ヲ
以テ觀音城へ言上ス其書ニ曰室町殿今三
日ニ網川カヒラキステタル中嶋ノ城ニ移リ

五フノヨシナリ

九日目賀田久作秀三カ方ヨリ屋形へ注進

ス將軍家昨八日ニ河口表ニツカセ給ヒテ

信長ニ命ニテ向城ヲツケ至フトノ事ナリ

此外種々ノ義ヲ注進スナリ一ハ乱國ノ剋

日記ニト、ムニイトマナシ

十日越州ノ朝倉左衛門督義景ヨリ屋形へ

使節アリ密狀アリ不知ニ依テ日記ニト、

メス近日義景出勢有ヘキトノ事ナリ

十六日攝洲へツカハシ至フ例ノヒノ

山伏大藏坊今日カヘリ來テ觀音城へ上テ

言上スルノ品々ハ

一今月九日辰刻ニ將軍家信長野田福嶋ノ

兩城ヲ攻ムルニ午刻ニ城中ヨリ討テ出テ

信長先手クツレテ將軍ノ本陣へニケカハ

リ將軍家ノ御本陣モトモニクツレ九日ノ

合戦ニハ信長敗北ノヨシナリ

一同十二日ニ又將軍家信長ノ勢兩城へ攻

カ、リノ卯剋ヨリ未剋ニテノ合戦ナリ
一同十二日ノ夜ニ三好山城入道笑岩カ許ヨ
リ大坂本願寺ノ門跡へ一通ヲ遺シ後詰
ヲ頼ム三好一家本望ヲトケハ本願寺領
トシ攝津河内ノ兩國ヲツカハスヘキノヨ
シナリ依之門跡一味シテ後詰スルナリ
十三日本願寺未剋ヨリ野田福嶋ノ後詰ト
シテロウノキニ河口ニ箇所ノ取出ヘ勢ヲ
出ス其勢四千三百騎トナリ信長ノ先手佐

久間右衛門其外濃尾ノ勢本願寺ノ勢ニツ
キ立ラレテ場ヲ退ク事十四町ナリ
十四日野田福嶋ノ勢ト本願寺勢ト二千ニ
成テ信長四番備ニテ乗クツシ室町殿本陣
モ敗比スル殊信長下ニテ再拜ヲ取りシ者
四人討死ス依之將軍家并信長彼表ヲ引拂
フ處ニ大坂ヨリノ勢三度マテシタヒ大キ
ニ戦フ信長十死一生ノ合戦ヲナス事十三
日合戦ニ三度ニ及フト也信長勢半討セ

都ニ入ル將軍家二箇所御手ヲ負ヒ玉フト也
十四日屋敷旗頭等ヲ觀音城ニ呼集テ仰テ
日室町殿信長攝津表ノ合戰ニ利ヲ失フテ
上洛スト云今此時ニ上洛シ天下ニ旗ヲ立
テ將軍并信長等ヲ誅討セントナリ淺井長
政言上スルハ是大事ノ御合戰ナリ朝倉事
何時モ屋敷上洛ナラハ後詰セント云事多
クナリ先淺井カ方ヨリ使節ヲ以テ義景ヲ
當國ヘ招キ寄ト云屋敷ノ曰家モ義景ヲ後

陣トシ上洛セハ宜カルヘキナレト旗ニテ
室町殿信長ヲ追討シタリト遠國ノ聞ヲ取
ルト仰ラル淺井カ方曰仰家ニハ候ヘトナ
タモ將軍家并信長兩將ナリ其上朝倉事後
陣ニテ候ヘハ是二旗トハ申難シトナリ屋
敷ノ曰左アヲハ汝カ方ヨリ朝倉ヘハ申越
スヘキト淺井カ方ヨリ淺井左近ヲ今日早
馬ニテ越前ヘツカハス
十七日越州朝倉左衛門大夫義景其勢二万

八千ニテ今日江北高嶋ノ城ニツキテ同名
式部大輔ヲ以テ觀音城へ案内ヲトグ
同日ノ夜屋形淺井下野守祐政同備前守長
政兩人ヲ觀音城ニ召寄テ曰汝父子ハ朝倉
ト一手ニ成テ志賀ノ郡へ打出今道越ニ上
洛シ白川表ニ陣ヲトシ屋形ハ勢多ヨリ大
津ニカ、リ山科ヲヘテ粟田口ヨリ打入へ
キトナリ淺井御説兼テ其夜ニ小谷ノ城ニ
カヘツテ朝倉トテツシ合ス

十八日朝倉淺井早志賀郡コツカ山苗麻雄
琴仰木衣川堅田ニテ打出ルノヨリ注進ス
屋形今日上洛有ルヘキノヨリテ辰剋
ヨリ御氣色以ノ外ニ成ノ故今日ノ上洛延
引ナリ申剋大洪水野須坂田蒲生郡ノ堤七
十四箇所キレテ田畠在家ナク水ニヲホシ
ク世又近年ニカヤウノ事ナシ
十九日屋形病氣甚キニ依テ今日ノ上洛イ
テ夕延引ナリ

同日酉刻ニ坂本ヨリ淺井注進ス使節淺見
采女正ナリ注進ノ旨ハ今日辰刻ニ信長ヨリ
森三左衛門ト云者ニ五百騎ヲサシソヘ昨
夜ヨリ此ノヒテ宇佐山ノ取出ヘ入ヌキ今
日未明ニ又今道越ニ織田九郎二千騎ヲサ
シソヘテ志賀ノ森ニ勢ヲカクシ入ル淺井
朝倉カ陣所ヨリ五十町計ナレ共信長勢皆
夜中ニ忍ヒ來テ入タル事ヲ不知寂圖ニ當
リタル信長ノ行也ト云然ニ信長勢申刻ニ

下坂本ノ町ヤラ焼ニトテ打出ルニ朝倉淺
井スナハチノリ出シ事故ナク信長ノ勢ヲ討
取ル宇佐山志賀ノ森ニ殘リタル勢ニテ一
人モ不殘打取ルノヨシヲ觀音城ヘ注進ス
其注進ノ一書ニ曰
一 今辰刻ヨリ志賀表ニテ打取ル首七百五十三
一 此内信長ヨリ忍ヒノ大將織田九郎ハ
朝倉方ノ家人大陽寺右馬助景春鑓下
一 宇佐ニテ討取候事

一宇佐山取出ニテ森三左衛門尉ト云者ヲ
淺井家人石田十藏組討ニテ首ヲ取候事
一同宇佐山ニテ信長内ニテ再拜ヲ願个シ
者ノ内武藤五郎右衛門肥田玄番九同茂
右衛門三人ハ降參仕ヘキノヨシヲ達テ
申ニ依テ義景ト相談ノ上赦免仕候事屋
形少モ御快氣ニライテハ早々御進發可
有ナリ信長殊外サヘキリ候ノ間御延引
有ナレキノヨシ各言上有ヘシ

右ノ一書ハ淺井下野守同備前守方ヨリ進
藤山城守カ所ニテ屋形へノ注進ノ通ナリ
此日午剋ニ坂本ヨリ觀音城へ注進ス其旨
ハ昨日ノ合戰ニ青地駿河守痛手ヲ負夜前
子剋ニ相果申ノヨシナリ屋形大病ニテ御
頭モ不_レ上ニ青地相果ルノヨシヲ聞テツト
起上リ玉ヒ衆ニ向テ仰玉フ青地事元來勇
將ナリ定テ此合戰ハ淺井朝倉又ルク働ク
ニ依テ青地深入シテ手ヲ負果ル成ヘシトテ

淺井父子方へ殊ノ外セツカニノ御書ヲツ
送ハシ玉フ
同日ニ青地駿河守カ息當年七歳ニ成ルヲ
召出シ玉ヒ父カ本領青地ノ領ニ近瀬千原
高野ノ庄ヲサシ副父忠死ノヨシヲ證文ニ
ノセラレテ彼息千壽丸ニ玉ル千壽丸屋敷
之御前ヲ立テ衆ニ向テ曰父忠死仕子其賞
ニ預ル事甚面目ナリ後孫ニ至ルマテ青地
カ家ニ不忠ノ勸世シト云觀音城ニ伺公ノ

旗頭筆此謂ヲ聞テ皆紅涙ス
同日酉剋屋敷病氣甚キニ青地駿河守討死
ヲクテ返クテ膝立有テ吾此時ニ當テ病氣
甚キ事偏當家ノ運ノ末ナリ命ハカキリアリ
各ハ末代ニ殘ル物ヲヤトテカツハト御床
ヲ起上テ盃取テ三度ホシ玉ヒ目賀田攝津
守ヲ召テ佐々木第四神目ノ大明神ヨリ代
々傳ル飛龍丸ト云御ヨロイヲ取出サセ自
ラ取テキ玉ヒ御團ヲ取テハヤ打立トテ御

座所ヲ出玉フニ觀音城在番ノ旗頭等是ハ
十色メキ立處ニ京橋長門守高吉屋形ノ御
鎧ノ袖ヲ取テ諫言スルハ甚良將ノニクム
處也ト屋形聞玉ハス佐々木大明神モ御照
覽アレトノ御誓言ナリ何モ力ナクシテ御
供ス今日屋形大津ノ城ニ著陣ナリ
北一日卯刻ニ屋形大津ヲ立玉フ先手ノ七
手組衆ハ早山科ニ進ンテ悉燒拂フ
同日屋形大津ヲ立玉フノ時志賀ノ城ニ陣

取タル朝倉淺井方ニ箕浦次郎左衛門ヲツ
カハシ玉ス其旨ハ朝倉淺井ハ今道越ニ擯
手一向ノヘキノ事ナリト云
廿二日坂本ヨリ屋形ノ本陣山科ヘ淺井カ
方ヨリ注進ス其旨ハ濃州西方ノ三人伊賀
伊賀守氏家常陸守稻葉伊豫守其勢三千ニ
百騎ニテ柏原ニ出張シ近邊ヲ放火スル
ノヨシ蒲生右兵衛大夫方ヨリ注進仕ルノ
間先屋形ハ御馬ヲ入ラレ可然トノ事ナリ

同日午剋ニ此使山科ニ至ル屋形ノ曰何ソ
三千計ノ小敵ヲ防カントテカホトテ城
都ニ入カ、ル勢ヲ引返スヘキ事ヤ有トテ
御勢ヲ入玉ハス、平能兼甲、兼宗、其勢三千ニ
同日申剋ニ又坂本ヨリ淺井注進スカヤウ
二國ヲ打アケ玉フテ上洛ノヨニテ信長聞
テ如此ノ行ヲ八成スト見テ候是非ニ屋形
御勢ヲ入玉ハスハ淺井ハ世カヘリテ此敵
ヲ追拂候ハントノ注進ナリ屋形ノ曰淺井

ヲ返置候ニテハ朝倉イヘンノ事ヲコ
ソ有ニテ先勢ヲ入ラルヘキトテ目賀
多攝津守馬淵源太兵衛尉伊庭河内守三井
出羽守三上伊豫守落合尾張守池田孫三郎
此七人ヲ山科ニ殘之玉ヒ其夜ハ山科ニ一
宿有テ明ル共三日ニ觀音城ニ入玉フ
共三日進藤山城守澤田民部少輔ニ七千五
百騎ヲサレソヘ柏原ヘ向ケ玉フ
同日午剋柏原合戰味方大剋ヲ得ルノヨニ

進藤澤田カ方ヨリ觀音城へ注進ス其書ニ曰
今日午剋ニ合戰初テ未剋ニ終ル敵七百
六二十三騎ヲ討取此外氏家稻葉伊豫カ内
ニテ再拜ヲ持タル者六人ヲ討取申候未
剋ニ美濃三人ノ大將勢ヲ引取ニト仕ノ
處ニ澤田兵部少輔カ本陣ヲクツレ追討
ニ數多首取リ申候今須ニテ追討ニ仕候
追付勢ヲ打入言上可仕候此旨可被仰上候
恐惶謹言

九月廿三日未剋

澤田民部少輔
進藤山城守

目加田左大夫殿 後伊豆守云

廿四日午剋ニ坂本ヨリ朝倉淺井ヨリ觀音
城へ注進ス信長今日卯上剋ニ京都ヲ立テ
今道越ニカ、ツテ志賀宇佐山ノ兩城へ勢
ヲ入穴穂表ニ陣ヲ張テ味方難義ニ及ノ間
早々屋形後詰ヲ可被成ノヨレ也是ハ屋形
指原ノ敵ヲウタニトテ山科ヲ引拂ヒ玉フ

事ヲヨク知テ今朝未明ニ今道越ニ志賀宇
佐山ニ入ルトナリ山科へ織田大隅守信廣
ニ一万五千ノ人数ヲサシソへ江州ノ七手
組へハ向フトナリ志賀宇佐山ノ陣
同日屋形觀音城ヲ立テ坂本表ノ後詰トシ
テ勢多へ進發ナリ信長屋形ノ後詰ヲ兼テ
知テ三井寺ノ西山本西郡ノ兩所ニ二重ノ
堀ヲカマヘ宇佐川ヲキリカケ四十二箇所
ニ出レ堤ヲユシラヘ勢ヲ伏セ大津ヨリカ

カル敵ヲ防クナリ屋形ハ馬場松本大津ニ
陣ヲハリ玉ヲ淺井朝倉ハ上坂本千野仰木
雄翠苗麻ノ五箇所ニ陣ヲ張ル山門ノ衆徒
六千人ハ早尾ノ上鉢力峯青山壺笠山ニ陣
ヲ取テ戰フ信長ハ志賀宇佐山ニ陣ヲ取ル
將軍義昭ハ將軍塚ニ陣ヲスヘ玉ヲ
同下坂本ノ住人水口大學助山下藤兵衛尉
安元次即助三人ウラカヘリ信長ノ味方ヲ
ナス依之下坂本ノ町ヲ信長方へ取ル淺井

カ家人五十四人討死ス中ニ名アルヲホヘノ
者共ハ西濱父内谷主馬助和田太兵衛三田
村武左衛門等ナリ此等ハ皆度々ノ軍忠ア
ル者ニテ倍臣タリトイヘ共屋形ノ御盃ヲ
モ玉ルホトノ者共ナリ
同日ノ夜子剋ニ山科ニ於テ信長ノ勢織田
大隅守ト江陽ノ七手組ト夜軍アリ敵二百
四十三人ヲ討取味方百九十四人討死ス對
々ノ合戦ナリト云

此五日屋形大津ヨリ志賀郡表ヘ進發宇佐
川ニテ屋形ノ先手ト信長ヲサヘ八人數ト
戦フ午剋也
同日淺井備前守方ヨリ使節ヲ以テ屋形ノ
本陣ヘ注進ス其事ハ信長坂本表ノ働ナキ
少子ニ大津ヨリ御勢ヲカケラル、事ハ不
可然ナリニサイハ南北ヨリ世メヨ世ハ
信長一防モ戦ス勢ヲ引入ニ事ハ一定ニテ
候日ヲノヘハ必室町殿ノ本陣マテ不殘志

賀宇佐山へ引入ラルへし其時アイツヲ定
テ前後ヨリヲシ寄せ一戦セハ一人モ不殘
討取ルヘキトノ事ナリ屋形此義ニ同シ先
手ヲ禁メ志賀宇佐山ヲせメ玉ハス
廿六日兩陣ニラ三合テ合戦ノ義ナシ
廿七日洪水酉剋成剋ニ大津ノ濱町三町焼
失ス是ハ信長方ヨリ悉ヒヲ入舟ニテ濱町
ニ火ヲカクルトナリ濱町町人ニ松坂屋宗
安ト云者本ハ濃州ノ不破ノ者タリシカ信

長ノ家人松井藤藏ト云者ノ兄ナルニ依テ
如此ナリ則乾式部カ手ヨリ火付十一人并
宗安ヲ召捕テ屋形ノ本陣松本ヘサ、ケ進
ス屋形彼火付十一人ヲハ野村吉五ニ仰付
テ大津ノ比茨川ノ濱ヘニハリ付ニカケ玉
フ是ハ信長方ヘノ陣所ヘ見セシタメトナリ
又大津町人松坂屋宗安ハ生國ノ好ヲ思ヒ
信長ヘ忠義ヲハケシ信長方ノ忍ヲ引入タ
ル事ハ尤ニクキ事ナレ共先祖ノ主人ヲシ

夕上敵ニ有トイヘトモ其心サシヲナス事尤
至極セリトテカヘツテ黄金二十枚ヲ玉ツテ
美濃國へ追拂ヒ玉フ是ハ江州ノ地下人ニ至
ルマテ他ノ國ニアルト云共先祖普代ノ主人
ヲステサセシトノ屋形ノ謀ナリト云
廿八日屋形ノ一族箕作左京大夫入道兼禎
息右衛門督義弼ハ先年江州ヲ立退テヨリ
八攝州ニ有テ三好家ト合體ニテ度々信長
ト弓矢ヲ争ヒ申サレシカ今屋形ト信長不

和成リ玉テ度々合戦ノ事ヲ聞テ兼禎父子
兼テヨリ計ヒテ家人三雲武左衛門三上伊
豆守兩人ヲ信長ノ本陣志賀ノ城ヘツカハ
シ味方ニナリ申ヘキナリ此合戦信長ノ利
運ニナツテ天下一統セハ江州ノ正統管領
職ヲ玉ルヘキトノ事ニテ今日舟ニテ山田
ヨリ唐崎ノ濱ニ上ツテ信長ノ味方ニ成玉
フナリ此兼禎父子事ハ屋形ノ近キ御一族
ニテ殊ニ定頼兼禎二代ノ間ハ屋形ノ後見

ニテ箕作ニ居住シテ國ノ政ヲトリ行ヒ玉
フカ去ル永祿六年ニ本屋形ヲノリトラニ
タメニ後藤但馬守父子ヲ討テヨリ江州ノ
旗頭等悉兼禎父子ヲニク三度々屋形ヘウ
ツタヘツイニハ箕作ノ城ヲ召上ケラレ國ヲ
退キ方々ニ有テカヤウニ當屋形ヘ敵對ナリ
廿九日卯辰刻ニ日ノ光ナクシテ國中クラ
キ事暗夜ノコトシ江州計ニテ余國ハ左ニ
ナキト云不思義ナリ

同日室町殿ヨリ屋形へ上使アリ其旨ハカ
ヤウニ兩陣日ヲヘテ合戦セシ事甚々民ノ
クルシム事ナリ殊信長義秀ハ水魚ノ思ヒ
アルヘキ事ナリトテ種々ノ義一書ニシタ
タメテ來ル屋形ノ曰信長兩陣ニハサマツ
テ大事ノ合戦ト見テ將軍へ言上シ無事ヲ
調事ナリトテ將軍家へノ返事ニ信長降參
仕ラハ上意ノ旨ニシタカフヘシトノ御返
事ナリ其後ハ上使不來

重十十月大

四日唐崎二陣取タル信長ノ家人津田太郎
左衛門尉ウラカヘリ忠功致スヘキノヨシ進
藤山城守ニタヨツテ屋敷ヘ言上ス依之進
藤入質ヲ取テ唐崎へ三井出羽守坂田掃部
助ニ八百五十騎ヲサシソヘツカハシ玉ヲ
津田則巳カ陣取タル小屋場ヲ焼立ルニ同
所ニ陣取タル柴田修理織田市令介等七百
騎計ニテ戦フ是ヲ見テ宇佐山ニヒカヘタル

信長ノ後陣佐久間右衛門尉不破河内守丹
羽五郎左衛門安藤伊賀守等四千騎計ニテ
平ニ助來ル味方ノ勢ツヨク働クニ津田太
郎左衛門討死シ味方ノ足輕二百人討討レ
テレハ三井坂田勢ヲ引取舟ニテ大津へ退
ントスルニ信長方ノ勢是ニ利ヲ得テ三千
討ノ勢共舟ニ悉ク取乗テ追カケ來ル三井
坂田三度マテ取テカヘシ舟軍ス大津ニヒ
カヘタル進藤山城味方ノ難義ヲ見テ六千

七百騎ヲ二手ニ分舟數百艘ニテ乘テ向
フ是ヲ見テ信長勢叶ハレト舟ヲ唐崎ヘ引
取ントスルニ早進藤カ兵船共進ツキテカ
ラサキト柳カサキノ澳ニテ舟軍スル事兩
度ナリ進藤カ勢利ヲ得テ首七百ヲ取テ大
津ニコキカヘル味方ノ討死三百人ニ及フ
此合戰ヲ唐崎ノ舟軍ト後ニ至ルニテ云ナ
リ是ヨリシテハ信長陣所カタメイカニモ
シテ引取ントスルナリ毎目ク矢軍ハアレ

トモ敵味方入乱ル合戰ハナシ信長一代ノ
難義ノ合戰ハ是ナリ
八月屋敷ヨリ信長ノ方ヘ使節ヲ以テ仰ツ
カハレ玉フ其辭ハカヤウニ對陣長クシク
シテ入馬ノツカレナリ來十日ニ一戰ヲナ
スヘシトノ事ナリ信長ヨリノ返答ニ十五
日ニ勝負ヲ決スヘキトノ事ナリ屋敷陣テ
曰必信長表裏スヘキ下心ナリ押テ十日ニ
トリカケ玉ハントノ事也進藤山城守京極

長門守兩人諫言し奉ルハカヤウニ信長日
ヲ延ルハ降參人詞ナリ何ソ降人ヲ責玉フ
法ヤ候ト申上ケレハ屋形一笑シテ曰汝等
力謂ニ任セニトナリハ屋形一
十一日山門藤本坊ヨリ使僧ヲ以テ屋形へ
注進ス其事ハ信長難義シテ皇家へ勅使ヲ
夕テラレ義秀并朝倉ト信長中和ヲ勅定有
度ノ事ヲ室町殿ヨリ仰上ラルノヨシ義ノ
旨ヲ注進ス屋形聞テ曰武ノ法ニ於テハ勅

定モ不可用トナリ
十二日東國ヨリ例ノ山伏カヘリ上テ屋形
ニ言上ス豆州ノ北條左京大夫氏康今月三
日ニ病死スルノヨシナリ行年五十六歳十
リト云
十六日夜ノ月光ナシ
十八日ノ夜星月ヲ貫ク甚天下ノ不吉ナリト云
廿日目賀田攝津守息小奪人佐ヲ以テ屋形
ヨリ信長ノ陣所へ被仰遺其旨ハカヤウニ

對陣長谷ツカレニクシテハ人民ノツカレナリ今
月廿四日ニ勝負ヲ決スヘキトノ事ナリ同
日酉刻ニ此方ヨリノ使節ニ信長ヨリ菅谷
九右衛門佐々内藏助ト云者ヲ兩人サシソ人
返事ナリ其旨仰聞ラルノ通長陣ニテ人馬
ノツカレシテ痛ム事御同前ナリ然ルニ今廿
四月ニ一戰ヲトケラルヘキノヨリ郷家ニ候
尚一戰ヲ期ストノ事ナリ
廿三日屋形朝倉淺井方へ使節ヲ以テ仰玉フ

其旨ハ明廿四日信長日勝負ヲ決スヘキニ
定メ候其方ヨリハ高山志賀ノ兩城へ責力
カルヘシ此方ヨリ宇佐山同トリテ二箇所
ヲ責玉フヘキトノ事ナリ淺井朝倉奉意得
トノ返書同日酉下刻ニ告來ル
廿三日ノ夜戌刻ニ室町殿勅使三條大納言
殿ヲ同道ニテ屋形ノ本陣松本へ移玉フ屋
形進藤山城守後藤喜三郎京極長門守等ヲ
召テ仰玉フハ室町殿當家ノ恩ヲ早ワス

信長ニクミシ今難義ニ及ヒ玉フニ依テ身
ヲ敵陣ニナケウツテ來リ玉フ所是天ノ與
フル所ナリ討奉ラントノ仰ナリ京極長門
守高吉諫言申サルハ仰寂ナリト存候へ共
今室町殿御身ヲ捨テ勅使ヲ頼ニ來リ玉フ
人ハ討申スヘキ事ハ唯兒子ヲ害スルニ不
異其上勅使ヲ無下ニ追カヘサルヘキ事ハ
神明ノ恐候ナレハ一應ハ勅ニ應シ玉ハ可
然トハ事ナリ屋形ノ曰左アラハ京極ニカ

リ出テ室町殿ノ仰ヲウケ玉ハレトテ長門
守高吉室町殿ニ參向テ御誼ノ旨ヲ兼テ扱
勅使三條大納言殿ヲ同道ス勅意ノ旨屋形
聞召テトカウニ不及御請申玉ヒテ室町殿
三條殿ヲカヘシ玉フ
廿四日屋形諸將ニ向テ曰信長志賀表ヲ引
拂テ恐キシハ味方モ勅命ナレハ軍中ヲ引
取り候ヘトノ御觸ナリ然ルニ信長今日モ
陣ヲ退ケス依之味方モ陣ヲ引ス

廿六日卯下剋二信長ノ先手七千五百騎二
手ニ成テ柳ヶ崎ヨリ南へ向テ責來ル進藤
山城守京極長門守黒田美濃守等大津ヲ立
テ茨川表へ打テ出テ宇佐川屍ニテ敵味方
寄合テ合戦始ル午剋ヨリ申剋マテ今日黒
田美濃守識隆先陣シテ味方ニ利ヲ得首八
百七十三討取ル敵志賀ニ引取ルニ信長目
ノ前ニ味方ノ利ヲ失フヲ見シ共助兼々ル
ハ後ニ朝倉淺井ヒカヘテアル故ニ此軍ヲ

助ケ兼々ルトナリ信長一代ノ大事合戦ナリ

ト世以云ハ是ナリ

廿七日ヨリ十一月マテ雨降テ合戦ナシ

十一月小

朔日京極長門守高吉ヲ觀音城へツカハシ

至フ是ハ屋形ノ母公松樹院殿ノ御年忌ニ

付テ威徳院ニテ法事ヲナスへキトノ事ニ

テツカハサルトナリ

四日大雪降ル

五日京極長門守觀音城ヨリカヘリ來ル
十三日淺井下野守祐政ハ觀音城ノ御留主
居番ヲ兼テ有リシカ昨十二日ヨリ煩ヒ以
テノ外ノヨシヲ屋形ノ本陣松本へ告來ル依
芝朽木信濃守元綱ヲ觀音城へツカハサル
十五日比良山ヨリ光物出テ山門ノ西塔釋
迦堂ニヲツル坊舎五箇所焼失ス
十六日堅田ノ今城ニヲカレシ澤田小太郎
秀重カ方ヨリ一書ヲ以テ屋形へ注進ス其

堅田ノ者共二百五十人猶飼甚介馬場
孫次郎居初又次郎角藤三南主馬介五人ヲ
大將ニシテ信長へウラカヘリ忠功ヲナス
ヘキニ定メ候早ク御加勢ヲ被下ハ時刻ヲ
ウツサス彼者共ヲ誅討スヘキトノ事ナリ
十七日檜崎太郎左衛門ニ弓ノ兵五百騎ヲ
サシソヘテ今日堅田へツカハシ玉フ屋形
檜崎ニ仰付テ曰彼五人ノ者共信長ニ屬シ
人質ヲ出スニ於テ信長加勢ヲ堅田へツカ

ハスヘシ加勢ヲ思ヒノ一、ニ入サセテヨリ
誅罰スヘシトノ事也

十八日申刻洪水酉刻ニ東ニ赤氣タツ如龍

世界甚赤キ氣ヲ移ス人面草木皆赤シ

十九日堅田ヘツカハシ至フ檜崎太郎左衛

門方ヨリ注進ス其旨堅田ムホニノ者共ヨリ

信長ヘ加勢ヲ請ケンヨシノ内通シテ今朝

人質等ヲ志賀ヘツカハスノヨシナリト云

同日澤田小太郎秀重カ方ヨリ注進ス平野

田中坊徳圓入道ウラカヘツテ居城ヲ焼拂

テ志賀表ヘ加リ申スノ由ヲ告來ル

廿日屋形新庄伊賀守信秀ヲ淺井備前守長

政カ方ヘツカハシ至フ其旨ハ平野田中坊

ウラカヘリ志賀表ヘ相加ルノヨシナリ早

ク其陣所ヨリ勢ヲツカハシフミ千ラスヘキ

ノヨシヲ仰ツカハス

同日堅田ヨリ注進ス信長ヨリ加勢トシテ

坂井右近ト云侍大將ニ千三百騎ヲケレクヘ

昨九日ノ夜解ニテ堅田ニ入テ猪飼磯部力
館ニ入火ノ手ヲアケ今堅田ノ城ニモ火ヲ
カクルノヨシヲ槽崎澤田カ方ヨリ屋形ノ
本陣松本へ注進ス
尤一日屋形箕浦次郎左衛門ヲ以テ堅田へ
ツカハシ玉フ其旨ハ信長ヨリ大勢ヲ堅田
へツカハスノヨシナリ其ヨリ朝倉淺井カ
手へ加勢ヲ申ツカハシ一人モ不殘討果ス
へシトノ事也

廿二日室町殿ヨリ上使アリ細木右馬頭十
川屋形上使ニ對面セス上使空クカヘラ
同山門惠光坊ヨリ使僧アリ屋形對面シテ
軍ノ評ヲ仰ツカハス細討ハ依不知不記
廿三日洪水坂本新居殿ノ宮水ニヒタリ流
九大宮川ノ水十合ニシテ八條ノ町屋百三
十余家水損ニ馬牛多流死ス
廿四日酉剋堅田へツカハシ夕マフ面々ヨリ
往進ス今午剋今城へ責寄敵ノ首百六三討

取ル味方ニハ雄翠ノ城主和田中務丞秀純
深入シ疵ヲ負ヒ十死一生ノ旨ヲ注進ス屋
形義秀公聞至ヒテ和田カ働ヲ感シ玉ヒ當
坐ニ自筆ヲ以感狀ヲ下シ玉フ
右和田カ働キハ今城ノ二ノ丸ニ乘入テ敵
十二人ト和田一人タ、カウテ手負事十四
箇所ナリ終ニ味方ノ陣ニカヘルナリ
廿五日堅田ヨリ屋形ノ本陣松本ヘ注進ス
今午剋ヨリ申剋マテノ合戦ニ堅田今城儀

部カ城責落シ信長ヨリノ侍大將坂井右近
安藤右衛門尉武藤美作守此外再拜ヲ持タ
ル首四ツ想テ首數千五百八十三討捕ル此
内坂井右近カ首討松本御本陣ニ來ル屋形
悦喜シテ三上伊豫守ニ仰付テ志賀ヘノ送
リ物ニセヨトテ馬上ノ衆三人ニ坂井右近
首ヲ持セテ信長ノ本陣志賀表ヘツカハ
玉フ屋形三上伊豫守ニ仰付テ曰汝一札ヲ
シタメ信長方ヘ坂井カ首ヲ送レト有ハ

三上則筆ヲ取テ
急度申遣候今度堅田之者共逆心シ其方
首之手ニ隨之處ニ信長悦喜シ則坂井右近
ニ一千余騎ヲ差添テ堅田へ遣シ近邊ヲ
燒拂之處ニ此方之若兵共與風責テ候へ
ハ運命ツキテ右近討レテ候ナリ屋形聞
一召右近ハ信長侍柱ノヤウニ思フノ由ナ
リ一見スレハ用ナシナキアトニテナツ
時カシカラニニ坂井カ首ヲ信長方ヘヲク

レトノ御事也其ニテヨクノ忠義ヲツクシ
討レテ候面ヲ御ラン可有トノ御事ニ候
恐惶謹言

元龜元年十一月廿六日

三上伊豫守

在判

織田上総介殿御内

佐々間右衛門尉殿

廿六日大雨申剋ニ晴天酉剋信長ノ陣取志
賀表ヨリ大津ニ陣取タル味方ノ中備進藤

山城守方へ使節有り是ハ今朝三上伊豫守
カ方ヨリ信長家來佐久間右衛門方へ送り
シ首ノ返狀ナリ其詞ニ曰
今朝ハ珍書殊更管領ノ仰ト有テ坂井右
近カ首ヲ是マテ送り玉フ御事則信長へ
達シ申ノ處ニ甚タカンシラレ候誠良將
ノ行哉ト當陣ノ面々モ紅淚仕事ニ候士
タラン者ハ歎トナリ味方トナルトモカ
ヤウノ御心サレユソ大將タラン御人ノ

不意タルへキトコソ存御事ナレ右ノ旨
相心得テ可申トノ事ニテ候恐惶謹言

元龜元十一月廿六日

佐久間右衛門尉

在判

近江管領御内

三上伊豫守殿御報

廿七日進藤山城守屋形へ言上シテ曰昨日
堅田ニテ打取タル坂井右近カ首ヲ三上ニ
仰付テ歎ノ方へツカハシ玉フ御事更ニ心

得スト云屋形ノ曰是は一ツノハカリ事也ト
計ノタマフ御本陣ノ面々モ山城同前也
同日志賀表ヨリ馬上ノ兵三十四騎大津へ
來ル是ハ坂井右近カ門葉ナリ彼等三上伊
豫守ニタヨツテ屋形へ言上ス其旨ハ一家
ニテ候右近堅田ニテ打死仕テ首ヲ御手へ
取り候ニ屋形御一見有テヨリ其儘首ヲ敵
陣ニ送ラセ玉フ事誠タクヒナキ良將ノ御
行哉ト存シ此御恩ニ坂井一家ノ者共御恩

ヲ報セシカ爲ニ只今御味方ニ參スル事也
今度信長トノ御合戦ニ御先ヲ馳打死仕テ
名ツ右近共ニ清メント云屋形聞召寂ナリ
サレ共士々ラン者ハ逆心ノ名ヲトル事禁
メ嫌所ナレハ信長ニ如本ツカヘヨト也彼
者共達テ御手ニ有ラント云屋形聞玉フテ
サラハ進藤山城守ニアツカルヘキトノ仰ニ
テ山城坂井カ門葉三十四騎ヲアツカル
一屋形坂井カ首ヲ信長方へ送り玉フニ信

長ノ兵等不殘屋敷ノ行ヲカンヒテ一人ニ
人ツ志賀表ヲ引拂味方ニクタル者多シ
一山岡美作守進藤山城守ニ語テ曰今度屋
敷坂井カ首ヲ敵陣ニ送り玉フ御下心ヲ
思フニ全ク慈悲ヲ思ヒ入玉フニハアラヒ
慈悲ヲ作テ敵ノ兵ヲ味方ニマ子カントテ
情ノ慈悲ノテタテト云ハ是ナルヘシト云
冷山城守一笑シテ曰其方カサケスミヲ昨
日語り十八恐ク名言ナルヘケレ共ハヤ

大坂井カ一門モ味方ニクタリ其外ノ士卒
鮮モ少ク來テ味方ニナルヲミテ今カク云
四ハ後定言トテ勇者ノ嫌所ナリト云テ夕
カイニ論ヲナス馬淵但久齊兩方ヲ諫テ
論ヲヤメ候事長キ論談ナレハ日記ニノ
スルニ不能
晦日志賀表ヨリ信長ノ侍一人大津ニ來テ
告テ云信長方ノ軍兵等長陣ニタイクツス
ルカ又ハ味方ノ難義ヲ思フテカ一日ノト

勢ノ退クヲ見テ室町殿へ申入皇家ノ勅定
ヲ以テ義秀公ト信長トノ中和ヲトリツク
口ヒ玉フトナリト語ル

十二月大

朔日卯刻ヨリ申刻ニ至テ大雪下四尺余ツ
モル近年江州ニテ無之大雪ナリ
四日坂本ヨリ朝倉左衛門督義景ノ使節屋
形ノ本陣松本へ來ル言上シテ曰山門ニハ
大雪ニテ諸勢難義ニ及フノ間明日ハ不殘

陣所ヲ取拂フテ上下ノ坂本仰木千野苗麻
雄琴衣川堅田ニ陣ヲ居可申トノ事ナリ
同日淺井備前守長政カ方ヨリモ屋形へ注
進スル事アリ密狀ナレハ不知
六日江北錦織源五郎内々信長へ通シ逆心
ノクワタテ有ルニ依テ今日建部藤藏ヲツ
カハサレ正念寺ニテ誅シ玉フ
同日午刻ヨリ大雪下北ノ方空赤如丹人面
北ニ向へハ則赤シ

七日主上御惱ノヨシ風聞ス成剋ニ下京兆
九町余焼失スルノヨシ告來ル
八日只與寺右馬名頓死人ヨシ觀音城ヨリ
屋形ノ本陣松本へ注進ス實ハ頓死ニアラ
ス屋形ノ御前不破吉五ト云者ニ仰付テ討
世玉フト也屋形ノ御前ハ信長ノ息女ナル
カ今敵味方ト成玉フニ依テ御前先後ヲ思
ヒ玉フト云ヲ傳聞玉フテ如此殺シ玉フナリ
十日京都ヨリ勅使アリ日野大納言殿ナリ

室町殿勅使ヲ御同道ニテ屋形ノ本陣松本
へ御出成テ屋形ト信長トノ中和ヲ仰イタ
シ玉フ勅意ノ旨ハ四海ノ乱逆ヲ治シ者ノ
カヘツテ兵乱ヲ好ム事甚痛三思召ナリ早
ク義秀信長中和シテ皇家ヲ守護シ將軍ヲ
洛内ニ入ヘキトノ御事ナリ勅意ナレハ異義
ナク屋形信長中和シ玉フサリナカラタカ
イニ御對面ノ義ハナシ
十一日勅使日野大納言殿歸京ナリ午剋ヨリ

大雪早下テ三門合向フニ來ル人モ不見三ホトナリ
十二月室町殿ヨリ上野中務大輔清信ヲ上
使レテ今度和睦ノ事珍重思召ノ旨ナリ
万歳三九ト云太刀ヲ屋形へ送玉フ
同日室町殿信長今道越ニ上洛ナリ
同日朝倉左衛門佐義景淺井下野守祐政同
備前守長政松本へ來テ屋形へ出仕レテ今
度合戰ノ評有テ忠功ノ者七十六人ニ賞ヲ
與ヘラル屋形朝倉ニ向テ曰其方ハ先歸國

有ヘシ淺井ハ小谷へ引取り候へ其上ハ信
長事元來表裏侍ナレハ例ノ表裏ヲナス事
有ヘケレハ屋形計上洛有ヘキトノ事ナリ
淺井長政言上レテ曰若信長表裏ニテ候ハ
ヨモ近江ハ通ルマレキニテ候ト云屋形ノ
曰文トイ一タニノ難ヲ遁レントテ信長表裏
スト云共左マテノ事カ有ヘキトテ朝倉淺
井ヲハカヘサレテ屋形計上洛有ヘキニ定
メ玉フ

十三日屋形義秀公上洛有テ東福寺ニ著陣
十四日室町殿ヨリ上使有テ義秀信長御兩
所將軍ノ御所ニ出仕有テ兩將對面アリ夕
カイニ心底ヲヘ夕テ玉フミレキヨシノ起
請有テ信長ハ相國寺ヘカヘリ玉フ屋形義
秀ハ東福寺ヘカヘリ入玉フ
十六日將軍ノ御所ニテ御能アリ信長ハ病
氣ノヨシヲ云テ出仕シ玉ハス屋形ハ出仕アリ
十七日室町殿ヨリ皇家ヘ達シ玉ヒ義秀信

長ニ官位ヲ進メ玉フヘキトノ事ナリ屋形
ノ日勅命ナレハトテ今度官位ヲ進ムヘキ
事ナリ家人等ニ受領等ヲ申與ヘントテ屋
形官位ヲ不進シテ御家人等二十五人ヲ皆
諸大夫ニ進メ玉フ信長ニハ此事ナクシテ
信長一人四品侍從ニ成玉フトナリ
十八日屋形江東ニ退キ玉フ酉剋ニ觀音城
ニ入玉フ

廿日織田信長京ヲ立テ大津ヨリ使節ヲ以

天觀音城へ其旨あり信長ヨリノ使節屋形
へ申上ルノ旨今日信長觀音城へ移り御前
ニモ對面有度トノ事ナリ屋形申請へキ
ヨリ仰玉フ
同日淺井父子觀音城ニ出仕シテ屋形ニ言
上レテ曰信長和睦ト有テ當城へ寄移スヘ
キノヨリ是天與ル所ナリフニツフスヘキ
ト申上ル屋形ノ仰ラルハ計ト云ナカラ人
ヲ夕ハカツテ討事ハ甚々良將ノ耻ル所ナリ

天命ニクミセスレテ人ヲ害スル時ハ其罪
時又カヘスト云吳子カ傳是ナリト仰ケル
淺井下野守重テ諫言シ奉ルハ屋形ノ御謀
ニテハ候へトモ信長表裏第一ノ男ナレハ
美濃へカヘリ諸方ノテツカイヲモトリツ
ク口ヒ人馬ノ休息モナレテハ必ス當國へ
寄來ルヘシ左アラン時ハ味方ノ人馬モ大
半ソコ子可申也今此時ヲヘテ討果サハ味
方ノ人馬口ウセスレテ勝利シ工候へキト

云屋形ノ曰吾信長ヲタハカツテ今日當城
ニテウタハ後代マテ佐々木ノ家ノ悪名ヲ
殘カニ事必定ナリ先今度ハ信長ヲ美濃圍
ヘカヘシ玉フヘキトノ事也ハ必ス前國
同日未剋ニ信長五万七千騎ニテ守山觀音
堂ニ著テ管屋九右衛門不破河内守ト云者
共ヲ使節トシテ觀音城へ案内ヲトケラレ
屋形兩使ニ對面アツテ待請ストノ返事也
酉剋ニ信長騎馬五十騎ニテ觀音城へ來リ

玉フ初ハ御國間ニテ屋形對面有テ後ニハ
信長ヲ御同道ニテ奥ニ入り玉フ屋形ノ御
前モ對面アルノヨシナリ屋形ノ御前ハ信
長ノ息女ナリ實ハ信長ノ兄織田大隅守信
廣ノ息女ヲ信長養子ニシテ江州ノ屋形へ
ハ前年嫁シ玉フ御前ナリ委ハ永祿ノ日記
ニ有リコ、ニノセス
同日ノ夜子剋ニ信長守山ニカヘラレ
廿一日信長守山ヲ立テ美濃へ下向ス同日

進藤山城淺井備前ト觀音城ノ御廣間ニテ
口論ス其旨ハ進藤カ曰今年志賀表ニテ淺
井殿平ニカ、リ至フナラハ信長志賀ニテ討
レ至フヘキ物ヲト云淺井カ曰吾モ左ハ存
スレ共屋形ノ御軍法ヲ背キ難キニ依テト
云進藤重テ云ク其ハ其方ノ元來信長ノイ
モト掣ユヘニ油斷スルト云テタカイニ重
ク口論アリ平井加賀守進出テ雙方共ニ正
理當ラストイヘハ淺井カ曰此長政ハ生々

世々忠臣ノ名シトラメ進藤殿ハ必味方勢
ツキナハ二心有ニト云進藤大キニ怒テ二
心トハ何事ソト既ニ太刀ニ手ヲカケント
ス當番ノ面々京極高吉朽木ナト是ハトテ
ワリステ淺井進藤カ中ヲ和ケ又是ヨリ進
藤山城守淺井備前タカイニ勇勢ヲ爭フ初
ナリ終ニ淺井ハ言葉ノ末不違シテ信長ノ
旗下ニ不付シテ討死ヲコソシタリ
廿二日屋形旗頭等へ仰付ラル今年志賀表

ノ合戦長陣ニへ來ル年始ノ礼ヲ御免ナリ
近習討觀音城ニ殘テ皆々御イトマ玉ツテ
在ク城々ニカヘル
廿四日信長ヨリ使節アリ甚今度和睦喜悅
ノヨシナリ屋形使節ニ對面セス
同日于剋大雪戊剋ニ星月ヲ貫ク西方ニ客
星出ル
廿八日屋形ノ族箕作兼禎父子數年ノ非ヲ
御免有テ觀音城へ出仕有度ノヨシヲ三雲

豊左衛門ヲ以テ今日新詔アリ屋形甚不與
シテ返事ナシ京極朽木淺井父子カ方へ仰
付テ江州ノ内ニ兼禎父子居住イタスニシ
キノヨシヲ仰付ラル平井加賀守言上申ハ
一々に御當家ノ後見トイハレシ人ナレハ
國ニ住居ノ事ハ御免可然ト達テ申ニ付テ
屋形兼利ナリ是ヨリ兼禎父子平井加賀守
ヲ甚コシニセラレシ始メナリ此平井加賀守
ト申者ハ江州ニテ真儒ノ名ヲ得シ者ナリ

平井カ親道譽ハ屋形ノ祖父雲光寺氏綱公
 ノ御取立ノ者ナリ北白川ノ合戦ノ時二一
 番二前馳ニタル勇士タリ父七平我誠賢平
 國三村居ノ事ハ跡見ヲ教テ申ニ村で
 一更ニ蘇菅邊ノ跡見十本ハ一ノ人ナリハ
 平八自ニ之ヲ咄命ニ人評我誠賢平言上申ハ
 孫我誠賢ノ内ニ兼藤父千孫トシテ
 其ノ事ハ其ノ事ニ兼藤父千孫トシテ
 其ノ事ハ其ノ事ニ兼藤父千孫トシテ



江源武鑑卷第十五下終

15 F

